

皆で歌える幸せ かみ締め30年

大学の男声合唱団に所属した東海地方のOBらでつくる「グランフォニック」の定期演奏会が6月7日、名古屋・栄の県芸術劇場コンサートホールで開かれる。創立30年を記念し、20～80代の54人が重厚なハーモニーを響かせる。
(大野沙羅)



定期演奏会に向けて練習するグランフォニックのメンバーたち＝名古屋市熱田区のフェールMAMIで

大学OBの男声合唱団「グランフォニック」

20～80代54人、Jポップ30曲メドレー 来月7日、名古屋で定演

グランフォニックは1994年に生まれ、昨年で創立30年を迎えた。早稲田、慶応、同志社、関西学院など各大学の男声合唱団OBで結成し、現在は全国23大学のOBが在籍。平均年齢は66歳、最高齢は83歳で、創立当初からのメンバーは10人在籍している。

定期演奏会は1年半ごとに開き、18回目。今回は2部構成で、過去30年間で流行したJポップ30曲をメドレーにした特別企画のステージを用意している。芝居の要素も取り入れ、ソプラノ歌手の奥村育子さんとサックス奏者の浅井ゆかりさんも出演する。

本番に向け、1年半前から毎月5回、名古屋熱田区新尾頭1の音楽スタジオ「フェールMAMI」で練習している。8日には、第2部に出演するソプラノ歌手の奥村さんらも交え、メドレーを歌って調子を確認した。

新型コロナウイルス感染拡大で休止していた活動を再開してから、新たに20代の3人が加わった。豊田工業大OBで会社員の井坂太聞さん(25)は「発声の仕方が今と違って勉強になる。自分の体で鳴らす響かせ方を学び、同じ若い人に伝えたい」と話した。

団長の中川暢さん(64)は「3世代にわたるメンバーが共に進化していくと努力している。次の40年、50年を目指して歩んでいきたい」と意気込む。創立メンバーで指揮者の成田正人さん(71)は「今、歌えることの幸せをかみ締めている。お客さんにも30年の歩みを振り返りながら聞いてほしい」と話す。

演奏会は午後4時開演(午後3時半開場)。全自由席で2500円。問い合わせはメール(kenjiahe550719@ezweb.ne.jp)へ。